不登校経験への意味づけに関するPAC分析

【目的】
不登校経験者のうち、自らの過去の不登校経験に対し「プラス」のイメージを持つ者は、不登校経験を肯定的に捉え直し、肯定的に意味づけている者と考えられる。本研究においては、過去の不登校経験をプラスのイメージで捉えている不登校経験者に対しPAC分析を実施し、不登校経験に対する個人別態度構造を明らかとする。そして、不登校経験者がどのような内容に対し「プラス」のイメージを持っているか、すなわち肯定的意味づけを行っているかを明らかにする。さらに課題の内容から、過去の不登校経験に対し肯定的意味づけを行うに至った過程に関し、理解を深めることとする。
また、平戸（2006）は、学校には自らの選択の結果、行かなかったこととする「選択の物語」の文脈において、明るい不登校というイメージが強調される傾向をみせている。不登校の結果としての困難や葛藤などのマイナス面の存在が無視されてしまうという問題を指摘している。本研究では、PAC分析を用いることにより、不登校経験に対するプラスのイメージの内容を捉えることにより、マイナスのイメージの内容を捉えると考えられる。

【方法】
調査協力者 事前に行った質問紙調査に、面接調査の協力を依頼する文面を載せた。その結果、不登校経験者40名うち13名から面接調査協力を申し出た。そのうち、以下の2点の条件に合致する者に、面接調査への協力を依頼することとした。結果的に、3名に対し面接調査を行った。
①過去の不登校経験に対するイメージに関する質問（「非常にプラス」〜「非常にマイナス」の5件法）に「非常にプラス」をもしくは「プラス」と回答している者。
②臨床的配慮から、平戸（1990b）の自己肯定意識尺度を用いた質問紙調査の結果、自己肯定意識の下位尺度全てにおいて、平均値以上の得点を示した者。

調査期間 2007年12月
調査方法 「過去の不登校経験は、現在のあなたにとって、どのようなものですか？」という刺激句を用い、PAC分析を用いた。PAC (Personal Attitude Construct)分析とは、個人の態度構造を測定するために内藤（2002）が開発した分析方法である。
＜第1回の面接調査＞
調査協力者の希望する場所でノートパソコンを用い、自由記載と類似度評定を行ってもらった（1時間程度）
＜第2回の面接調査＞
析出されたデータを用い、クラスターのグループ分けを行ってもらい、内容の解釈を行った（1～2時間）

【結果と考察】
3事例のクラスター構造は、以下の通りであった。
＜調査協力者 Aの事例＞
20代前半の男性。
①10代後半における、フリースクールとの出会い、
カウンセリングを通じての意識の変化
②20代後半における友人との出会いをきっかけとする意識の変化
③自分の経験を他者のために生かしたいという願い

＜調査協力者 Bの事例＞
20代前半の男性。
①学校社会に対する抵抗感
②学校外での学びの肯定
③自己を肯定するための努力
④一般的な言説への疑問

＜調査協力者 Cの事例＞
20代半ばの女性。
①恥ずかしい思い出としての語り
②大切な思い出としての語り

本研究においては、調査協力者3名の事例を通じて、過去の不登校経験が肯定的に意味づけられ、プラスのイメージを持つに至った過程が示された。その過程においては、協力者により異なるが、過去の不登校経験に対する肯定的意味づけに関し考えられる要因について新たな知見を得ることができた。

3名の語りの内容からは、フリースクールや居場所、適応指導教室などにおいて、「自分の居場所を見つけたこと」、「友人との関係を深めたこと」が、過去の不登校経験への肯定的意味づけに影響し得可能性が示唆される。
また、全ての事例において、不登校のマイナス面に関する語りを得ることができた。本研究においては、平戸（2006）の「選択の物語」を内在化している者においても、語られる内容の中に、マイナス感情の存在を認めたことができた。これにより、PAC分析を用いることにより、調査協力者が自身の内面構造をクラスター構造として外在化させることで、深く開示が可能となったことによると考えられる。
さらに、3名に共通して、「現在不登校である子どもたちのために」という視点での語りが見られた。この結果から、自分自身の不登校経験に対し、肯定的意味づけを求める者は、「現在不登校である子どもたちのために」という新たな視点を持つことも示唆される。
以上、本研究において得られた知見が、過去に不登校経験を持つ者の理解に関する一助となると期待される。

【引用文献】
平戸理恵 2006 「生きづらい私」とつながる「生きづらい誰か」 一「当事者の語り」 再考（総集 新世代の論客たち U-40 PART2 いま、伝えたいこと）"論叢（通号131）、224～222
9（朝日新聞社）
内藤行雄 2002 PAC分析実施法入門："個"を科学する新技術への招待（改訂版）ナカヤシ出版
平石賢二 1990b 青年期における自己意義の発展に関する研究（1）自己肯定性の現象と自己安定性の検討 名古屋大学教育学部紀要 教育心理学学科37,217−234